

でんぶん  
伝聞

(1)

いっびき はな み すばこ かえ  
一匹のミツバチがおいしそうな花を見つけると、巣箱にとんで帰る。する

なんびやくひき たいぐん げんぼ さつとう  
と、たちまち何百匹の大群が現場に殺到する。

ばしょ なかま し  
「その場所をどういうふうに仲間に知らせるのか」

しょう う きょうじゆ  
こんどノーベル賞をうけたオーストリア生まれのフリッシュ教授の

けんきゆう こうきしん かれ けんきゆう  
研究は、その好奇心からはじまったという。彼の研究によって、「ハチの  
ことば」についてのおどろくべき秘密があきらかにされた。

たいない とけい も たいよう うご じかん  
ハチは体内に時計を持っているので、太陽の動きと時間をくみあわせて、

とうざいなんぼく ほうがく せいかく み かえ  
東西南北の方角が正確にわかるのだそうだ。ミツを見つけて帰ったハチは、

なかま まえ かた かくど  
仲間の前でダンスをしてみせる。そのおしりのふり方と、とぶ角度によって、

なかま ほうがく きより し  
仲間はミツのあるところの方角と距離を知るらしい。

しかた しゆ しゆ すこ りょうほう  
ダンスの仕方は、ヨーロッパ種とアジア種とで少しちがうが、両方をま

む つく いみ つう  
ぜた群れを作っても、ダンスの意味はちゃんと通じあえるのだそうである。

(2)

ほっかいどう かわ しじょうさいこう  
北海道の川にサケがのぼってきたという。ことしは史上最高といわれた

よねんまえ おな かず かわ  
四年前と同じぐらいの数のサケが川をのぼるらしい。

アイヌ人はサケを「カムイチェップ」と呼んで大切にしたそうだ。「カムイ  
チェップ」というのは「神の魚」という意味だ。

かわ う かわ くだ うみ で おお さんねん  
サケは川で生まれ、川を下って海へ出ていき、そこで大きくなり、三年か  
よねん  
四年たって、また、生まれ故郷の川にもどってきて卵を生み、そして死ぬ。

きた うみ なんせん およ まわ とかちがわ う  
北の海を何千キロも泳ぎ回ったあと、十勝川で生まれたサケはまちがいな  
とかちがわ いしかりがわ う いしかりがわ わす  
く十勝川にもどり、石狩川で生まれたサケは石狩川を忘れないという。そ  
ひみつ じぶん う かわ するど しゅうかく  
の秘密は、自分の生まれた川のおいをかぎわける 鋭い臭覚にあるそうだ。

### (3)

とうきょう めいじいぜん えど よ とくがわばくふ にほん せいじ  
東京は明治以前は「江戸」と呼ばれ、徳川幕府があつて、日本の政治の  
ちゅうしん  
中心だった。

とくがわばくふ とくがわいえやす みかわのくに しゅっしん いえやす えど  
徳川幕府をはじめた徳川家康は、三河国の出身である。家康が江戸に  
うつ いま やく ねんまえ えど しつちたい おお  
移ってきたのは今から約390年前であるが、そのころの江戸は湿地帯が多く、  
ひと す まち  
人の住めるようなところではなかったという。このため、町をつくるために、  
いえやす けらい のうみん たいへんくろう  
家康も家来や農民たちも大変苦勞をしたらしい。

えど おお まち はってん ひと あつ  
しかし、江戸がだんだん大きな町として発展するにつれて、人が集まって

きて、130年か140年後には、人口は百 万 となり、過密問題が議論されはじ  
めたそうだ。物価、とくに土地の値段が高いことが問題になっている。